



- ・7月16日は、宿泊先を出発し、約3時間をかけて、ランス市からパリ市へ移動した。
- ・パリ市到着後、最後の調査先となる在フランス日本国大使館へ向かった。

2(6) 在フランス日本国大使館【大規模スポーツ大会関係施策調査】

- ◆調査日：令和6年7月16日(火)
- ◆対応者：山谷裕幸氏(広報文化公使)
植田達也氏(広報文化部参事官)
中野賀枝子氏(広報文化部文化班一等書記官)
安由利子氏(広報文化部文化班二等書記官)



《調査目的・概要》

パリ市では、本年7月26日から8月11日にかけてオリンピック競技大会、8月28日から9月8日にかけてパラリンピック競技大会の開催がそれぞれ予定されている。今回の大会は、『ゲームズ・ワイド・オープン』＝「広く開かれた大会」をスローガンとし、パリ市内の様々な文化・観光名所が競技会場となる。そのため、開催に向けた準備が鋭意進められるとともに、機運醸成に向けたイベントが開催されている。

本市においても、2026年にアジア・アジアパラ競技大会の開催が予定されており、開催に向けた準備を行っているほか、「伝統と県民・市民性に触れるおもてなし」をコンセプトに各所でのおもてなしを検討している。今回、オリンピック・パラリンピックの開催を目前に控えたパリ市内の状況について日本国大使館職員と意見交換を行い、本市における今後の大規模スポーツ大会関係施策の参考とするものである。

【参考】大規模スポーツ大会の概要について

(1) 大会概要

区分	パリ オリンピック	パリ パラリンピック	アジア 競技大会	アジアパラ 競技大会
主催	国際オリンピック委員会 (IOC)	国際パラリンピック委員会 (IPC)	アジア・オリンピック評議会 (OCA)	アジアパラリンピック委員会 (APC)
大会 期間	令和6年 7月26日～ 8月11日 ＜17日間＞	令和6年 8月28日～ 9月8日 ＜12日間＞	令和8年 9月19日～ 10月4日 ＜16日間＞	令和8年 10月18日～ 10月24日 ＜7日間＞
実施 競技	32 競技	22 競技	41 競技	18 競技
参加国 ・地域	206 の 国と地域	185 の 国と地域	OCA 加盟の 45 の 国と地域	APC 加盟の 45 の 国と地域
参加者 数	10,500 人	4,400 人	最大 15,000 人	3,600～ 4,000 人

(2) ホスピタリティ

・パリオリンピック・パラリンピック

パリ市庁舎のクラブ 2024…競技体験会、地元選手との交流、フランス各地域の生活や美食文化を反映したエンターテインメントや地元料理、コンサート、ショー 等

・アジア・アジアパラ競技大会

「伝統と県民・市民性に触れるおもてなし」をコンセプトに掲げており、市内県内各所でのおもてなしを検討中

名古屋市会欧州視察団にて在フランス日本国大使館を訪問し、まず、山谷裕幸広報文化公使から歓迎のあいさつをいただいた。その後、ふじた団長から今回の視察の受け入れに関する御礼のあいさつを行った後、オリンピック、パラリンピックに関する現地の状況等について説明を聴取した。

その概要については、以下のとおりである。

<山谷裕幸氏>

日本大使館によろこそ。私、在フランス日本国大使館で広報文化担当の公使をしております、山谷裕幸と申します。2022年にパリに赴任して参りました。前任地はバングラデシュのダッカでしたが、その前は本省で文化交流課長を勤めておりました。

この度、フランスではオリンピック、パラリンピックの開催を迎えます。名古屋市様におかれては、同様に大きなスポーツ大会をこれから開かれるということで、このパリオリンピックの準備状況が、ご参考の一助になればと思います。

また、ランス市との友好協力もぜひ進めていただければと思いますので、今回大変お忙しい、滞在期間かと思いますが、できる限り多くの成果を持って帰っていただくべく、私ども大使館としてもできる限りのことをできればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

<ふじた団長>

山谷公使はじめ大使館の皆様方におかれましては、オリンピック、パラリンピック開催前のご対応の中で、私どもを受け入れていただきましたこと、まずもって心から御礼を申し上げます。

今、公使からお話がございましたように、私どもは2026年にアジア競技大会及びアジアパラ競技大会の開催が決定し、2年あまりのところまで参りました。今、愛知県、名古屋市では、開催準備に向けて、様々な取り組みをさせていただいております。個人的な話



▲山谷裕幸氏



で恐縮でございますが、私、アジア競技大会の名古屋市議会の推進議員連盟の会長も務めておりまして、18日にはまた東京のスポーツ庁の方に、国家要望に行かしていただくなど、日々、開催準備に向けた取り組みをさせていただいております。

今回、パリオリンピック、パラリンピックにつきましては、市内の様々な名勝を使った競技会場ということで、おそらく非常に着目をする点も多かろうということで、本日はブリーフィングの形で、できる限りの情報を開示いただければというふうに思います。



<山谷裕幸氏>

お手元に資料を配らせていただいておりますけれども、今現在ですね、オリンピックでどのような規制が行われる中で、どのような交通サービスが提供されているのかということについて、こちらの資料でご覧いただけたと思います。

まず最初に、全体的なこの大会の特徴や、今どのようなことが問題になっているのかということをお手元から簡単に述べさせていただきたいと思います。

今し方、団長の方からもありましたとおり、パリ2024大会、非常に大きな特徴がありまして、これはマクロン大統領、非常に強いイニシアティブとリーダーシップ、平等性と多様性をうたった国民に開かれた大会ということで、パリ市内、この首都パリそのもの、そして各地の名勝を活用したオープンエアで都市型の大会ということを大きな特徴としております。

要は様々な美しい名勝も使いながら、もちろんスタジアムも使いますが、スタジアムだけではないこのパリの魅力そのものを使った大会にしよう。大変な意欲的なものでございます。同時に、SDGs、それから環境にも十分配慮して、サステナブルな大会にしよう。例えば使い捨てプラスチックを使用しないとか、様々な環境配慮ですね、脱炭素、二酸化炭素排出の削減、こういったものにも配慮した大会を行っております。具体的に



ということなのかということこれから申し上げて参ります。

まずその前にフランス国民の印象ですが、大会の開催自体を多くのフランス人が支持しています。ただ、もともとパリ市というのは、なるべく排気ガス、二酸化炭素を排出する車の使用量を減らそうという政策を進めております。

具体的に言いますと、なるべく市民の方々に、自転車であるとか、電動アシスト付きの自転車、どうしても内燃機関の動力が必要であればなるべくバイクを使ってもらうようにしています。そういうようなことで市内各所の、それまで路上駐車がいっぱいになっていたところを、例えば電気自動車の給電ステーションにしたり、バイク専用の駐車スペースにしたり、市民が便利に利用できるようなシステムを整えた上で自転車の置き場にしたりということを行い、ありていに言うと、車が非常に使いにくい街になっております。一方通行もかなり増えていまして、それまで対面通行だったところの一方を自転車歩行者専用道路にして、片方を自動車の一方通行にするというようなことで、なかなか初見で走るのは難しい街になっております。そうやって車離れというのを進めていると。

そういう中でこのパリ大会が行われるということで、公共交通機関の使用が奨励されているのですが、街自体をスタジアムにするということで、道路封鎖が行われています。コンコルド広場をつぶして仮設の観客席を作ってスタジアムにする、アレクサンドル3世橋をつぶしてスタジアムにして、数ヶ月前から完全通行できなくなっております。

そういうわけで、車で街中を動くのがすごく難しくなって、地下鉄網も非常によく発達しておりますし使い勝手もいいのですが、広場そのものとか橋そのものをですね、封鎖してスタジアムにしている関係でいくつかのバス路線なんか



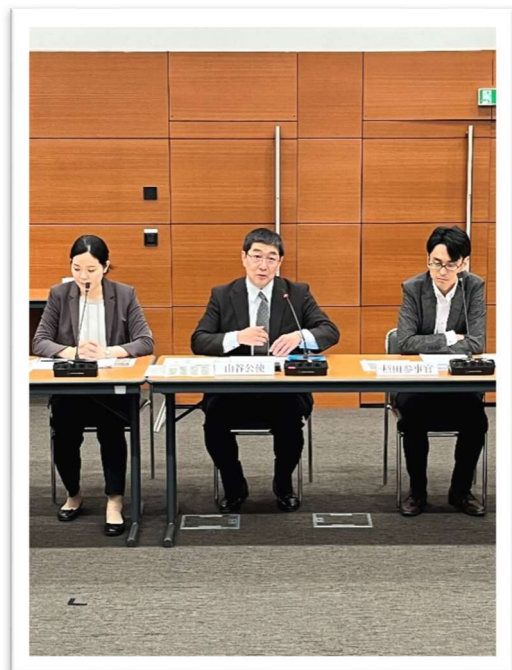
も運行できなくなっているため、やっぱり一定の生活に対する影響というのは避けがたいものがあります。

それから、治安への影響ということで、懸念されているのはテロです。街中で、人が動いて生活しているところにスタジアムをつくるため、期間中は封鎖するんですが、市民生活への影響を最小限にするためにはセキュリティでの封鎖期間というのは最小限にしなければいけない。オリンピックは、やはり残念ながらテロの標的になるということは十分あり得るため、そういった影響も懸念されていて否定的な意見というものもあります。

私の知り合いのパリ市民も、大会期間中はパリの市内が不便になるし、治安上の懸念もあるのでパリ市の外に逃げると言う人が結構いらっしゃいます。もともとの7月、8月というのはフランス人のバカンスシーズンですので、大体パリ市から人がいなくなるんですが、例年どおり、バカンスでパリを離れるよと言う人も、結構いらっしゃいます。

それから、やはりどうしてもオリンピック・パラリンピック期間中というのは、多くの観光客、観客の方が来られます。パリ市の観光局では1600万人がパリ市及びその周辺を訪れると予想していて、通常の7倍以上の混雑というのが見込まれています。

市民の生活に対する負担というのもありますし、それからパリ市に来られる方にどこまで満足していただけるかという、おもてなしですね、これも、結構厳しくなってくるのではないかという見方もございます。一番顕著なのは、市内のホテルです。これはもう大会の開催が決まったときから、高級ホテルのスイートとかそういったところは全部買い占められてしまっている状態で、ほとんど宿泊はいっぱいになっている。



中級以下のホテルも完全に買い占められていて、我々が予約しようとしても全く相手にされないか、日本のビジネスホテルの方がずっと綺麗で立派というようなホテルが一泊1,000ユーロで、かつ最低15泊以上で、全額前払いとか言われるような始末ですね。さすがに、大会が近づいてきて、実際の需要との調整で空き部屋っていうのは出てきてはいるんですが、それでも価格は高騰しています。1,000ユーロが500ユーロ、一泊7万5,000円か8万円ぐらいになったというような感じですよ。

そういう中で、パリ市を離れる市民の方が、自分のアパートが空きになるので、1ヶ月以上です、貸そうという違法民泊みたいなものが結構出てきていて、フランス政府も対策に乗り出しています。



交通状況について少し触れましたけど、パリの警視総監自身も地獄の夏がやってくるみたいなコメントをするぐらいでして、やはり市内の移動は相当困難が予想されるというか、もうすでに困難がでてきています。特にセーヌ川でパリは分かれているんですが、いくつかの橋が封鎖になっているものですから、開けている橋に車が集中する。一応、組織委員会では、リアルタイムの交通司令部みたいなものを設置するというふうに言っています。

また、住民が住んでいるところで大会をやるということで、そこがテロの標的になるのならば、セキュリティを守って出入りを制限しなきゃいけない。どうするかというと、そこに住んでる住民にとっては、出たはいいけど、おうちに帰れないってことになりかねないんですね。どうするかというと、事前に住民に申請してもらい、今の時代、通行許可書、紙じゃないんですね、スマホのQRコード、これを配布して、それで住民の方、そこに立ち入る正当な理由のある方々、お店の方々もいらっしゃいます、こういった方々の立ち入りは保証しながら、そうでない人たちの立ち入りを規制するという行っている



す。QRコードをスマホでかざすと、顔写真付きで本人確認がその場でできるといふ。そういうQRコードを配布をしているのですが、これも関係ない人に、もしくは悪意を持った人に発行してしまうと大変なものですから、事前の審査をしております。ただ、これもオンラインでやるのですが、結構厳しい場面もあって、そういった住民のアシストはじゃあどうするのかと。高齢者のアシストはどうすんだと。そういうような課題も出ています。そのため、パリ市は1区から20区までの区に分かれておりまして、各区役所で住民説明会を最低2回は実施して、高齢者の方々へのサポートなど、様々しているという状況です。

また、この会期中にもう一つ懸念されているのがストライキです。この国民的な行事に、ストライキなんかやるのかというのが我々日本人的な感覚なのですが、いけれども、いや、そういう困る時期だからこそストライキ打つと交渉力が高まるという考えも出てくるみたいですね。

フランス労働総同盟というものがあるんですけども、期間中にストライキを行うというふうに宣言しています。ストライキは労働者の権利ですから、禁止はできないのですね。そうすると政府も、いや、このバカンス期間中に出てきた人たちには、ボーナスを支給するからとか、そこはすごく、苦勞をしているみたいです。

そういうような中で、あと残りわずかまで迫ったパリオリンピック、パラリンピックでございますが、これ市内ご覧になると分かるかと思うのですが、特にテロに狙われそうな観光客が集まるところに銃を構えた軍人や、警察の特殊部隊の姿がよく見られるかと思えます。

大会期間中のテロっていうのは最大限警戒されるところで、開会式当日は4万5,000人が動員されるという話が出ております。



今、お手元に住民説明会の様子や、QRコードがどういうふうになっているか、それから、実際、住民が生活しているパリの街の中ですね、スタジアムがどうつくられてどう展開されているのかという、ちょっと簡潔に示すために、写真だけ用意させていただきました。これに関してちょっと補足をお願いします。

＜安由利子氏＞

初めまして、在フランス日本国大使館広報文化部の安と申します。

今、山谷公使から説明がありましたように、1月に8区で開催した説明会の写真を用意させていただきました。こちら当初は8区の区役所で実施するとなっていたのですがけれども、予想以上の住民が来て、定員200人のところ600人ということになりまして、急遽同じ区内にある音楽学校の講堂で実施をしたという経緯があります。

2回目の説明会も4月下旬にございましたが、その時は、今度は事前予約制にした上で、音楽学校の講堂での説明会がございました。説明会の段取りとしましては、パリ警察の説明もありましたし、大会組織委員会の説明もあり、QRコードの取得についての概要、どういうふうに交通機関が止まり、どういう影響があるのかという説明がありました。

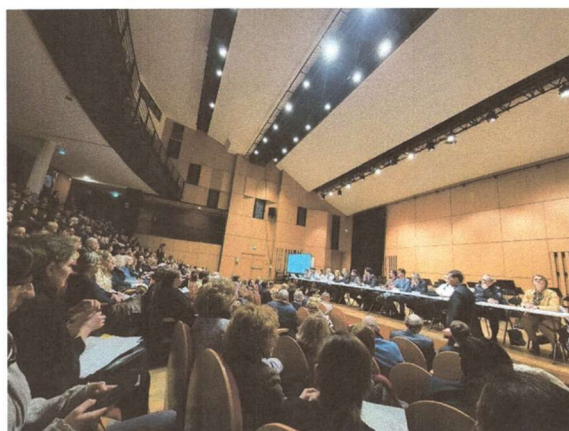
住民からの質問も多数ございまして、各々の生活がかかっていますので我が家には障害者の娘がいてどうやるんだとか、バスが動かないときはタクシー使えるのかとか、様々な質問が飛び交いつつ、その時も必ずしも答えがあるわけではないのですがけれども、警察の方が毎回回答をしていたというのが印象的な様子でした。

その他、8区に関しましては道路の封鎖が常に毎日どこかで行われる予定になっていますので、今日は通れて明日は通れない道みたいな、そういうものが予想されています。フランスの交通省のサイトに行きますと、何月何日の時点で、例えば自分の自宅の住所を入れると、その日のその時間は赤ゾーンというふうに、車両が通行できない時間なのか通行できる時間なのか示されます。

各自が自分の住所や行き先を入れて分かるように、対策が一応はとられてはおります。その他は同じ公共交通機関のアプリなども出ています。どうやったら、会場に一番来やすいのか、どの路



▲安由利子氏

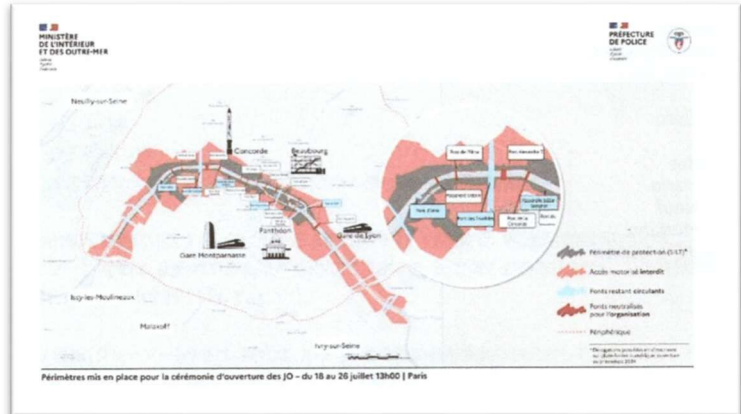


8区住民説明会(2024年1月)

線が逆に今日は使えないのか、そういうことがわかるようにはなっています。

<山谷裕幸氏>

地図を見ていただくと、非常に影響が大きいということがお分かりになるかと思います。ただこの期間はできる限り極限にするというような措置がとられておりまして、それがゆえに今度は何が起こるかという、日替わりで規制区域がどんどん変わっていく。そのため、IT技術を使って、とてもじゃないけれども紙でこうやって見ていたらわからなくなるので、オンラインで全部わかるようにという工夫がなされているということです。



あとは公共交通機関ですが、通常、パリ市内を移動するときには1回券が大体1.7ユーロぐらいなんですけれど、大会期間中は4ユーロ、かつ、親切にも1日有効でパリ市外の競技場まで全部カバーするセット券を売ってあげましょうということで、そのセット券じゃないと買えないと。便利なものかどうなのかちょっとよくわかりません。ただこのチケットを買っていただけると、もうゾーンとか全く気にせずに行けるセット料金になるということでございます。

<中野賀枝子氏>

申し遅れましたが、私、今、在フランス日本国大使館で書記官をしております中野と申します。

今回、視察団に来ていただいて、今お話ししたように、パリ大会についてはマクロン大統領のすごい思いはあるのですが、結構、住民への影響がすごく大きなものとなっております。各区20区がそれぞれ最低でも2回ずつは説明会をして、住民の理解を得てですね、さらには先ほど公使からもありましたが、例えばQRコードの申請というのは、高齢者の方とかは結構難しかったりするので、そういうのは区役所の職員



▲中野賀枝子氏

がサポートするとか、そういうようなことを行っております。

今後、名古屋での大会がどれぐらい住民への影響がある大会になるのかというのは、ちょっとパリに比べるとそうではないのかなとは思いますが、そうは言っても住民へのケアが必要になってくる部分はあるのかなというところで、少しでも参考にいただければというふうに思います。

この後は、自由な質疑応答の時間にさせていただきたいと思いますので、もしご質問がありましたらどうぞよろしくお願いします。

<ふじた団長>

私個人のお願いも含めてですが、先ほど来ご説明があったとおり、市街地を競技会場として実施をするという、歴代のオリンピックの中ではおそらくそんなにケースがないだろうというふうに思われまして、お願いというのは、ぜひ大使館の皆さんから見た、この今回のパリオリンピック、パラリンピックの総括的な部分をまた名古屋に情報をご提供いただきたいということです。



というのは、今セキュリティ等のお話もありましたが、例えば、歩行者、自転車を優先して、車を抑制するというような、いわゆるそういう施策というか、何を申し上げたいかと言うと、実はアジア・アジアパラ競技大会のメインスタジアムとなりますのはパロマ瑞穂スタジアムですが、このスタジアム自体が、実は郊外型ではないものですから、周辺が住宅地、それも古くからの住宅地となっています。

ですから大会を開催するということになると、スタジアムだけでおそらく、アジア・アジアパラ競技大会の収容人数をフォローできないものですから、その周囲の公園一帯を、いわゆる開催ゾーンということで今順次、整備を進めております。そうした立地条件であるスタジアムで、私が個人的に非常に興味があるのは、この地域の住民の方と大会をどううまくケアリングするか、調和をさせていくかというところが、非常に今回の私どものこの大会そのものの成功の鍵を握っていると。

施設が立派だとかそんなことはそれもお金をかければいっぱいになるわけですから、そっちはあまり私は実は興味がなくて、大会を開催したときに、その地域といかに、先ほど苦情という話もあったんですけど、いかに調和をしていくような、セキュリティゾーンの設定だとか、いわゆるそういう動線ルートの確保で

あるとか、そういうところに非常に私は興味をもっております。

2年後の大会ですからできる限りの準備をして参りたいと思うので、ぜひ、私からのお願いとしては、残念ながら私どもは開催当日におりませんので、大使館の方でそういったことをちょっと意識しながら情報を集めていただいて、様々な課題や問題点も出てくると思いますし、その解決策みたいなことをおそらくフランス政府、パリ市は懸命におやりになると思いますから、ぜひちょっとそうしたケーススタディーができるような情報、またご提供いただきたい。ちょっと話が長くなりましたけど、質問というよりは、あらかじめのお願いでございます。よろしくお願いします。

<山谷裕幸氏>

ありがとうございます。かしこまりました。この大会は本当にそういう意味でですね、壮大な実験場と言えば失礼ですけども、多くの教訓というかですね、もしくは事例を示してくれるのではないかなと。そこには住民もありますし、セーヌ川の河畔なんていうのは観光の目玉ですから、商店ですね、土産物やレストランとかですね、これどうするのかと。交通を止めると言っても、こういったところが営業するために必要な食材の調達とか配達とかどうするのかと。

実は我々の公邸もそういう規制エリアの中にあってですね、この期間は食材のデリバリーを断られるとかですね、いろいろそういう影響はかなり出てきておりますので、おそらくこの中心部で商店をやっておられる方、かなりの影響ではないかなと思われるということで。いろいろそういったところでですね、蓋を開けてちょっとどういうふうになるのかと、我々もなかなか市内自由に動けないことは予想されるのですが、見聞きできる範囲で、情報集めたいと思います。



<議員>

ふじた団長に少し重なる部分があるのですが、住民説明会、行政区で2回ずつということですから熱心に行われているということであり、もし何かその住民説明会の中で、市民の方から意見が出て大きく変わった部分というか、住民説明会で大きなテーマが出たということがあれば教えていただければと思います。



<安由利子氏>

多くの説明会は Facebook Live や YouTube でも配信をされていて、会場に足を運べなかった方々が見られるようになっておりましたし、一部の区では、議事録とか回答ができなかった質問に対する回答というものが、公開もされている区もございます。またパリ市が全体として、たくさんのいわゆるFAQですね、僕はこうですけどどうすればいいですかみたいな、そういう質問の専用のページを設けております。

そこから出てきた中で、何か変わったかと言われますと、正直、住民説明会で変わったかどうかわかりませんが、具体例としてお渡ししている観光局の資料のオリンピック期間中の移動手段という、あと地図がない方の資料の2枚目になりますが、これは5月の時点の資料なんですけれども、1つ目の、2ページ目ですね、1枚めくっていただいて、セキュリティー区域に直接隣接する一部の駅が閉鎖されますという見出しのところの1つ目の駅のシャンゼリゼ＝クレマンソーの閉鎖期間は変わりました。7月1日から閉まると言われていたのですが、今まだ開いてまして、今週中からの閉鎖にはなるというふうに聞いてますので、そういう意味では地元住民等々とか、もしかすると商店かもしれないですし、影響があったところに関して閉鎖区間が変わるというケースはありますので、一例としては挙げさせていただきます。

その他、セヌ川の使い方に関しまして、セヌ川は実は穀物の輸送をする手段として、陸路ではなく船で運ぶことが多くあるのですけれども、こちらも船の



利用期間も、それは住民説明会というよりは業界との対話にはなると思いますが、当初の閉鎖期間より大分短くなったというふうに聞いております。

陸路で行った場合の補償や、運べる分量の問題がありまして、当初のパリ市と組織委員会が想定していた区間より、大幅に短くなったというふうには聞いております。

<議員>

先ほどもお話がありましたが、このグレーゾーンのところに、レストラン、病院、様々なところがあるかと思うのですが、そういう対応がもうどういうふうにやっているのかかわかれば、今わかる範囲で教えていただきたいですし、団長が言われたとおり、また、これが今の状況でわからないのであれば後日、教えていただければと思います。

アスリートの方もたくさん見えていると思います。市民の方もいらっしゃる中で、この7倍の観光客が来るといふ病院の体制とか、その辺のことというのは、救急車も含めてですが、どういう対応で、どういう搬送をするのかとかいうのがもし決まっていれば、これもわかる範囲で教えていただければ。お願いします。



<山谷裕幸氏>

警察車両、救急車両を含めた緊急車両の通行は広く認められているところですが、このグレーゾーンでの営業というのは実質的には相当困難ではないかと。休業することが勧告されていると確か聞きました。実際開いてもお客さんが来られないので、蓋を開けてみてどうなるかということはあるかもしれませんが、現実的にはかなり営業困難ではないかと。すみませんが、そのあたりの営業補償とかがあるのかというところは、ちょっと今情報が無いので。

<安由利子氏>

あくまで報道の話でしかわかりませんが、少なくとも7月26日の開会式当日は営業ができない、ほぼできないというのは報道では、お見かけしています。

補償の部分はわかりませんが、同時に、チケットを買われた市民が楽しめるように、セーヌ川沿いのいわゆる競技会場ですね、開会式当日は露店というのですが、売店とか、軽食が食べられるように、たくさんいろいろと店舗が出店される

というふうに聞いています。そこで協力すると、結構負荷がかかっているとは聞きましたが、割とそこでの協力金みたいなものが支払われるとは聞いていますけど、それが、必ずしもセーヌ川沿いのお店がやるかというわけではないと思いますので、ちょっとそこはまた一緒にしてはいけない話かなとは思いますが、そういうふうなことはあります。



あと搬送の件につきましては、大会の選手においては大会組織委員会が指定する病院がありますので、選手や資格認定証を持っている大会関係者については、パリ市と組織委員会が契約している病院に搬送されるという手はずにはなっています。

<山谷裕幸氏>

若干その医療体制を補足しますと、まさに色々な医療機関に対して、観光客などの医療ニーズが高まるということも想定して体制を組んで欲しいということは、多分政府からも組織委員会からも連絡が行き、各病院で体制を組んでいると。そうすると、人員体制が必要となってきますので、勤務時間が長くなるということと、特別手当をどうするかとか、さっきのお金の話になってくるところが付随して出てくる問題かと思っております。

<議員>

先ほど団長からありました瑞穂スタジアムなんですが、実は私も10年ほどずっと瑞穂スタジアムにおりまして、様々なイベントを行って参りました。今回、このような大規模なスポーツ大会が行われると、事前の説明会があるのですが、当日への苦情や要望について、ものすごい数が、スタジアムもそうですけど、運営委員会にも来ると思います。



そうした場合の大使館としての関わり方っていうのは、どのように考えられ

ているのですか。

＜植田達也氏＞

もちろん我々は主催者側ではないので、苦情を直接受ける立場ではないのですが、フランスで、そういった苦情とか、国民の不安、不満とかが、最終的にどうなるかという、暴動に繋がるというのがよくあるケースなんです。要はデモが行われて、それが治安部隊との衝突に繋がって暴動に変わっていく。これが一番我々として恐れているケースなので、まさに邦人、在留邦人に対して、身の安全のために、どうするかということはご案内すると。場合によっては我々の警備担当の者が現場に行き、状況を確認してとか、そういうこともあったりします。



▲植田達也氏

＜山谷裕幸氏＞

大使館として、まず一義的に対応する日本人の方々ですね、在留邦人、それから邦人旅行者の方々がいらっしゃると思うのですが、まず当日の交通規制などに関して、なるべく事前に情報を、大使館に特設ホームページを作っておりますし、紙ベースで見たいという方もいらっしゃるのでパンフレットをつくったりして、旅行代理店にも協力を求め、事前に配布してトラブルに巻き込まれないようにしていただく。

あとは、やはりどうしても財布をすられたり、置き引きにあたりしてパスポートが無くなったという方が必ず出てこられますので、領事部を中心に体制を組んで速やかに再発給できるようにというようなことを考えております。

それから、考えたくはないんですが、考えなくてはいけないこととしてはテロや緊急事態が起こったときの緊急体制ですね。緊急本部の設置であるとか、そういったような体制で構えつつ、平穏無事であることを祈りつつ、何かあったらもう現場に飛び出していくと、そういうよう



なことになるかと思います。そうなって欲しくはないですけども。

<議員>

ざっくりとした質問で大変恐縮なんですけども、開催1週間前となっている中で、現地で見えて本当に大丈夫なのかと、心配事がもしあるのであれば教えていただきたい。

<山谷裕幸氏>

山ほどあります。最後につじつま合わせはするんですけど、日本人的に見ると、いやもう1週間前になってまだ工事が終わっていないけど大丈夫か、これってできるのというのは、それはあります。

それから、人の移動面についての心配ですね。空港からこちらに向かう、オリンピック専用レーンというのを造っているんですね。要するにオリンピックの許可を受けた車両以外通行できないレーンを造っていると。そこは大使館の車も走れないのですけれども、そういうのができて、当然渋滞の発生が予想されるわけで、どのぐらい交通が混乱するか、人の移動が混乱するかっていう、その心配がございます。我々自身も非常に行きづらいし、他の市民の方々、それから在留邦人の方ですね、何かあったときに、やはり空港に行くのにすごい時間がかかって、乗り遅れたとかそういうようなトラブルっていうのは多分、出てくるんじゃないかなという心配がございます。

それから先ほど申しましたように、セキュリティ上の不安ですね。これはパリ特有というのではなく、どんな大会であってもございます。

あまたある心配の中でも、すぐ目の前に思いつくのはそのあたりじゃないかと。そういう中で我々がちゃんと仕事をできるか。先ほどお話ししたとおり、現場へ飛び出していく時に飛び出せるのだろうかという心配ですが、特に開会式のときは、大使館の車も動けませんので、本当に必要になったら走っていくしか



ないかなと。ずっと、本当にそういう心配でございます。

<議員>

2点お伺いしたい。まず今回、COVID の世界的な感染症の拡大というのがありまして、それを踏まえて具体的な対策がとられているのでしょうか。



あとは、オリンピック、パラリンピックのいわゆるレガシーというか、例えば教育機関、子どもたちに対しての広報というか。オリンピックが平和の祭典と言われる中で、このヨーロッパでの戦争であったり、いろいろな紛争が世界的に起こっているという状況がある。そういったことを踏まえた上で、政府としてこういったことでオリンピックを子どもたちにPRしているみたいなどころがあれば、雰囲気的なところでも構わないんですが、それを教えていただければと思います。

<植田達也氏>

我々で知り得るところではなかなか難しいのですが、本当にフランスは、オリンピック、パラリンピックに関連して、色々な文化イベントの開催を重ねていくことで、国民全体の機運を高めて、子どもたちも含めて、この夏、ちゃんと自分たちの、ホスト国として、フランス人として誇りに思っこの大会の成功を見届けようという機運を高めようとしている、努力をしているのはよく見えています。

若干これは失敗というか、あまり評判のよろしくない政策なんですが、フランスの子どもたちに記念コインをあげようという政策を行ったのですが、大分批判されました。何でこんな無駄遣いをしてるんだという、そういう不満が高まっているっていう報道がありました。

かなりこのイベントをレガシーとして残そうという取り組みを意識してやっているんだろうなというところは見えてきています。

あと COVID の関係は、あまりもう我々としては感じないです。もう COVID は過ぎ去ったものというか、過去の話という感じで、通常通りの普通の都市のオリンピック、パラリンピックというものとして開催している感じはします。特に感染症対策がどうかということは、全然聞こえてこないです。

<山谷裕幸氏>

パリ市内をちょっと見ていただくとわかるとおり、フランス人は誰もマスクをしていなくて、マスクをすると日本人だってわかるんですね。

それから、子どもたち、レガシーという点ではいろいろな文化イベントが行われています。我が国のNPOも関わっているものとしては、世界



界一大きな絵というプロジェクト、これは各区の子どもたちに絵を描かせて、それをつなぎ合わせて、大きな絵にするというプロジェクトを手がけているNPOさんがおられて、ここの15区と協力して、イベントが行われるというのがあります。

それから、日本人の子どもたちですけれども、日本の代表選手と場がもてないかというのは、工夫しているところじゃないかと思います。ありていに言うと、この期間はフランスにはバカンスの習慣があって、学校も長い夏休みで家族ごどこかへ行ってしまいかもありまして、なかなか簡単ではないところもあるかとは思いますが、そういうような模索、努力というか、検討というものはなされていると承知しています。

<中野賀枝子氏>

あと、子どもたちとの交流という観点では、政府がというよりは、事前キャンプですね。各競技団が各地の郊外の自治体と連携して事前キャンプを行っています。その自治体の子どもたちと日本の選手団がちょっと交流をする機会とかは、結構、各競技団で違うのですけれども、そういうのはやはり多くあって、その競技を子どもたちに知ってもらくと、本番の大会のときにも、その競技を会った選手だから見ようというような形になりやすいので、そういうのは結構積極的に、フランスの自治体が工夫してやっているかなというのはあります。

ただもちろん競技団としては、当然練習の邪魔になってはいけないので、その調整は自治体と競技団連盟が各自でやっているという感じです。パリでしか行われない競技もあると思うのですが、各自治体と競技団が了解得られれば、これを機になるべく子どもたちとも触れ合う機会を積極的につくっているのかなという印象を受けております。

<安由利子氏>

家族というテーマで申し上げますと、オリンピック、パラリンピックの一番安いチケットが、過去大会と比べてとても安いというのがまたヒットしている、アピールポイントになっています。同じ予算で動かすので、安いチケットがあれば一番高いチケットがもっと値上がるというからくりはあるのですが、一番安いチケットでも20ユーロぐらいから見られるものも多くなっています。今、毎週木曜日に組織委員会が10時から、まだ売れ残っているチケットを再販売していますが、安価なチケットはすぐ、10時15分ぐらいには売り切れとなっています。

またコンコルド広場においては、座席を買っていない方も、オリンピックを味わうため、アーバンパークに入るためのチケットが24ユーロぐらいで販売されています。リセール機能もとてもうまく機能していますので、公式リセールで安いチケットを買う方もいらっしゃるかなと思います。

パラリンピックは子ども1人と大人2人のセット価格で買えるというような、親子観戦チケットみたいなものもありまして、親子でぜひ生で観戦をして欲しいというところを感じられる施策かなと思います。

<議員>

観光客がたくさん、選手団も含めて人がたくさん来るというお話で、例えば宿泊施設も、このオリンピック、パラリンピックに向けて新しくつくられたホテルはあろうかと思うんですが、でもそれでも事足りないことは容易に想像できる。

国として宿泊者に対応するためにホテル建てようにも、通常に戻ったときの需要が下回るとなると、あまりお金をかけられない。だけど、泊まる場所が欲しいという中で、例えば民泊の規制を緩めるとか、人を受入れるために補助を出すなど、何らか施策としてやられたのかということをお聞きしたい。



<山谷裕幸氏>

ホテルに関しては、確かこのオリンピック、パラリンピックのためだけに建設したということはないと思いますが、時期的にこれに間に合わせるために工事を急いでいたホテルはあったと思います。ただ、今おっしゃられた通り、平常時の需要のことを考えると、ホテルまで建てるというのは、なかなかそれはでき

ない。

そこで、我々が承知している範囲で、フランス政府が行ったのは、ホテル業界などに対して泊まりやすい価格で提供してよというような呼びかけはしていたと思います。ただこちらの習慣として、ホテルの宿泊料金は時期により、市場原理で決まる。むしろ日本のように定額という方が珍しいぐらいで、時期によって変動するのは当然なので、そこを政府から命令というか要請をされるのはなかなか難しかったのではないかと思います。

民泊に関しては、契約によっては契約違反になりますし、本来宿泊には許可なりそういうようなものが必要ではないかと思うのですが、それを緩和するというのはちょっと聞いてはいないです。

<植田達也氏>

新しい情報はないですが、民泊の制度はそもそもフランスで割と充実していたというところがあるので、その制度の枠内で民泊を活用しつつ、大量の観光客需要を取り込もうとしていたのではないかと思います。

あと、民泊というほどでもないですが、ちょっとしたロッジなど、要はすごく安く泊まれるところも今かなり観光客に人気だという話は聞いたことがあります。さらに加えると、例えばランス市などの少し遠いところも特急なり、新幹線なりそういうもので、割と簡単に来られる距離なので、観光客の選択肢としてはあるという話は聞いております。

<議員>

ありがとうございます。もう1つ、移動手段として自転車や徒歩を推奨するということで、環境面でもそれは素敵なことだなと思うのですが、例えばシェアサイクルで言うと2万5000台という数字があり、増設もするということがあります。またこれもさっきの需要と供給のバランスの話で、大会が終わるともう使う人がいなくなるというとなかなか増やしていくか。

以前、7、8年前にパリに来させてもらったときに、電動のキックボードがそこら中にあった記憶があります。何か増設させようと思うとそれにはお金がかかり、事業者負担でやり切れるのというところでもないものもあるかと思うのですが、役所というか行政の関わりについて、例えば助成をしたらかそういったものは特になのでしょうか。

<山谷裕幸氏>

電動キックボードについては、オリンピック、パラリンピック期の需要だけの話ではなく、パリ市の政策になっているので、すみませんが具体的に事業者への補助金、増設の状況というのはわかりませんが、確実に増えています。

むしろこのオリンピックを契機に、今のパリ市の政策としては車レスなパリ

市にしようという方向で、そのきっかけとして使おうというのは明言しているところです。ですので、オリンピック、パラリンピック後の需要減少を見込んで手控えるというのではなく、むしろ逆ではないかなと。これを契機に、もう車レスなパリにするんだというのが、今の市長の強い思いではないかと思います。

<安由利子氏>

自転車に関しては、個人で買うと補助金が出るというふうに聞いています。

<議員>

電動キックボードについては、本当にヨーロッパ色々なところで見かけるが、ヘルメットもつけなくて結構なスピードで乗っている。規制をかけるとか、そういうことがあれば教えていただきたい。

<山谷裕幸氏>

電動キックボードについては、車両もさることながら歩行者とのトラブルが結構ある。こちらでも少し問題になり、規制というか、後押しを少し控える、例えば、貸し出しを優遇するなどが少し手控えられているというような話はちょっと小耳に挟んだことがある。



<議員>

お金の話を聞きたいのだが、アジア・アジアパラ競技大会の運営費が大幅に増えると言われている。会場の建設費も大幅に増えると。一方で東京オリンピック以降、スポンサーが集まらないといった状況になっている。お金はかかるけれども、寄付はない。自治体の負担が増えるという状況にあると思っている。

このパリのオリンピック、パラリンピックにおいては、会場の建設費とか運営経費とか、そういったものがどうなっているのか。それから、スポンサー収入は、どういう状況であるのかとか。概要でいいですので、お聞かせいただければと思います。

<植田達也氏>

具体的な金額がすぐ出ないのだが、色々な計算の仕方はあると思うが、全体としてどこまで経済効果を見込むのか、大会開催期間中及びその後の数字、何年か、その時間の尺の取り方がいろいろあると思うが、それで結局黒字だというのが、

組織委員会からの発表です。東京大会は無観客の開催となったので、かなり赤字になったという事情はあるけれども、フランス大会では黒字が見込まれる。そういった発表をしています。

ただ、どこまでの経済効果を計算するのかというのは色々な匙加減があるでしょうし、国民ベースでの色々な件では、やはり大会にまつわる諸々の財政負担は上がっているのではないかと。公共交通機関のチケットが2倍に跳ね上がるとか、警察官や色々な公務員についての特別手当、それはもう全部税金で出すのだろうとか、そういう意味で財政面での負担は上がっているのではないかということはフランス人もかなりシビアに見ているという状況です。

ですので、一応、公式発表では黒字だと言っているけれども、じゃあみんなそうなのね、やった、嬉しいというような雰囲気かということ、必ずしもそうではないのかなというのが、今の状況かと思います。



《所感・考察》

今回のパリにおけるオリンピック、パラリンピックの特徴については、マクロン大統領の強いイニシアティブとリーダーシップにより、平等性と多様性を謳った国民に開かれた大会となっており、首都パリそのものを活用したオープンエアで都市型の開催となっている。また、SDGsに配慮したサステナブルな大会を目指しているとのことであった。

大会開催中の交通規制については、パリ大会では公共交通機関の利用を推奨しており、町全体をスタジアムにすることで、道路封鎖などの交通規制も多く予定されており、車での移動が極めて困難となる見込みであるとのことだった。

またパリ市内では当然、市民が生活をしているため、市民生活への影響を最小

限にしなければならない一方で、セキュリティ対策も行わなければならない、そのバランス調整が難しいとのことであった。その結果として自動車の一方通行も増えている。街中の交通規制に関して、地域住民に対しては事前に通行許可証を発行しているが、一般的な紙の許可証ではなく、QRコードを発行し、スマートフォンで示すようにしているとのことであった。

治安に関する懸念と観光客の受け入れについては、オリンピックはテロの標的になる可能性もあることから、治安上の懸念を理由に、パリの外に避難するという市民も多く発生しているとのことであった。もともと7月、8月はフランス人にとってバカンスシーズンなので、例年どおりパリを離れる方も多いとのことである。

オリンピック期間中は多くの観光客が予想され、観光局では大会の期間中に1,600万人がパリ市及び周辺地域を訪れると予想している。通常の7倍以上の混雑が見込まれることから、市民の生活に対する負担の影響と、観光客にどこまで満足していただけるのかというおもてなしの部分についても懸念がある。

一番顕著なのは市内のホテルであり、高級ホテルのスイートルームなどは、開会が決まった当初に全て買い占められている状況で、宿泊施設はほぼ予約で満室の状況である。したがって、宿泊費は高騰しており、パリ市を離れる市民の方々が、ご自身の部屋を貸し出す違法民泊が発生しているとのことであった。

オリンピック、パラリンピックの開催に向け、交通規制、セキュリティの強化、観光客の増加など、パリ市内の状況は大きく変化している。その結果、住民への影響も大きくなっており、交通が不便になり、生活が制限され、治安への不安感が増すなど、さまざまな課題が浮き彫りになっている。

オリンピック、パラリンピックの組織委員会は、環境問題への配慮や、住民との共存など、持続可能な大会を目指しているが、課題も残っている。名古屋市でも2026年にアジア競技大会が開催されるため、パリ市の事例を参考に、住民への説明や、交通整備、セキュリティ対策など、様々な課題解決に向けて取り組む必要があると思われる。



- ・在フランス日本国大使館の調査をもって、視察団が予定していた全ての調査を終了した。
- ・調査を終えた視察団は、シャルル・ド・ゴール国際空港から出国し、日本への帰途に就いた。
- ・約14時間30分のフライトを経て、翌7月17日に羽田空港へと到着した。

お わ り に

このたび、名古屋市会欧州視察団一行は、全8日間の日程でリトアニア共和国及びフランス共和国の2カ国、計4都市を歴訪した。

長距離の移動を伴う非常にタイトなスケジュールではあったが、社会経済状況調査、平和関係施策調査、大学施策調査、博物館施策調査、美術館施策調査、大規模スポーツ大会関係施策調査など様々な分野の調査を行うことができた。

名古屋市博物館と交流を行っているリトアニア国立博物館や、名古屋市美術館と覚書を締結しているランス美術館など様々な施設等に直接伺い、現地関係者の生の声を聞くことにより、各施策の詳細な現状を知るとともに理解を深めることができ、今後の本市の施策を検討するに当たっての重要な調査を行うことができたと考えている。

また、本市にゆかりのある杉原千畝氏の記念館に留まらず、ヴィリニウス市ではバルトの道の起点となったゲディミナスの丘、原爆の敷石が置かれている杉原記念桜公園、ランス市では名古屋城と同様に戦火から再建した大聖堂など、両国の人々の自由・平和への思いや日本・名古屋との絆について強く実感することができ、大変貴重な経験となった。

加えて、今回の視察では、これまで、リトアニアまたはランス市と交流を行ってきた関係団体の声を親書として現地にお届けするとともに、現地の方々と今後の交流の在り方等について活発な意見交換を行うことができた。今回の取り組みにより、本市との絆をより一層深めるとともに、市民生活の向上やビジネス関係のさらなる発展に繋げていく一助になれたと考えている。

個別の調査事項に関する詳細な内容及び考察は、前述したとおりであるが、我々としては、一人一人の議員それぞれが、この視察を通じて得た知識・経験を十分に生かし、今後の議員活動を通じて、本市の施策にしっかりと反映し、市民生活の向上に向けて鋭意努力を行っていくとともに、本市とリトアニア、ランス市との交流がより活発に行われるよう取り組んでいく所存である。

最後に、業務多忙の中、視察団の調査のために、貴重な時間を割いてご対応いただいた各調査先の皆様をはじめ、調査先との日程調整等にご協力いただいたリトアニアのオーレリウス・ジーカス駐日特命全権大使や外務省の担当者様、事前協議会にご協力いただいた本市担当部局の皆様にご心からの感謝を申し上げ、報告を終えることとしたい。

議 決

議員の派遣

令和6年7月4日

地方自治法第100条第13項及び名古屋市会会議規則第54条の2の規定により下記のとおり議員を派遣する。

記

名古屋市会欧州視察団

- (1) 派遣目的 社会経済状況調査
平和関係施策調査
大学施策調査
博物館施策調査
ランス市表敬訪問
美術館施策調査
大規模スポーツ大会関係施策調査
- (2) 派遣場所 ビリニュス市、カウナス市、ランス市、パリ市
- (3) 派遣期間 令和6年7月10日から7月17日まで
- (4) 派遣議員
- | | | |
|--------------|---------|---------|
| くにまさ直 記 | おくむら文 悟 | 日 比 美 咲 |
| 岩 本たかひろ | 吉 岡 正 修 | 岡 本やすひろ |
| 西 川 ひさし | 成 田たかゆき | 丹 羽 ひろし |
| ふじた 和 秀 | 横 井 利 明 | 伊 神 邦 彦 |
| 森 ともお | 服 部 将 也 | さかい 大 輔 |
| さわだ 晃 一 | 金 庭 宜 雄 | 渡 辺やすのり |
| 木 下 優 | | |